

## 天間氏追悼



## 追悼のことば

㈱テクノ長谷相談役

阿部正宏

平成6年4月9日天間則光君と永遠のお別れをしなければならないとは、何という非常な定めなのでしょうか。洵に残念であり改めて衷心より哀悼の意を捧げます。

則光君は弘前大学文理学部物理学科を卒業され、㈱応用地質調査事務所に入社、物理探査の道を歩まれました。縁あって昭和49年に㈱長谷地質調査事務所に入社され、新しく地質調査の分野にいどまれました。昭和54年には技術士試験に合格、献身的な頑張りで土木地質の発展に寄与されました。平成2年1月には設計部長となられ、設計部の強化・後輩の指導に盡力されました。建設省新庄工事事務所の新しいダムに対しての提言、岩手県の地回りや地盤改良等に、これまでの多くの経験をいかして、巾の広い仕事に積極的に取り組んでこられ、社運の発展に大きく寄与され将来への発展への道すじを開かれました。

会社での多忙な仕事の外に、土質工学会東北支部の幹事、地質調査業協会東北支部の広報委員として、支部運営の発展と若い人々に対する啓蒙に盡力されました。平成5年10月には、全国地質調査業協会連合会創立30周年記念式典で地質調査業の発展に功績があったとして表彰されました。また、東北理工専門学校の講師として、これから実社会に巣立つ若い学生に、物理探査の講義・実習を行い大きな効果をもたらし、将来を楽しみにしていました。

会社にあっては、新しい考え方を積極的に提言され、本年5月新社屋完成の暁きには、新しい社屋で新しい発想であらたな出発ができるものと期待していました。

生者必滅がこの世の習いとは言え、わが国男性の平均寿命75才には程遠く早逝された則光君の面影を偲ぶとき、則光君自身がこれからやりとげたかったことなどを思うと、たゞ残念でなりません。このうへは黄泉路の平安をひたすらお祈り致しますとともに、在天のみ霊が後に残されたご遺族の上に限りないご加護を垂れさせられんことを念じつゝ、蕪辞ながら追悼の言葉といたします。合掌。

平成6年5月

天国の天間さんへ

株式会社 復興技術コンサルタント

吉川 謙造

拝啓

6月も末、深緑の北上川畔、今、盛岡では第29回土質工学研究発表会（全国大会）が開催されております。

梅雨の晴れ間ですが、今日はとりわけくっきりと岩手山が見えます。

ほんの数ヶ月前の「土と基礎」の会告に載っていた、貴方のお名前が新しく印刷されたプログラムから消えてしまっておりました。

天間さん、貴方がお亡くなりになられてから、もう2ヶ月半になるのですね。あまりにも突然の悲しい報せに、当時は言葉もありませんでしたが、今では少しずつ悲しみも薄れて、良い思い出、楽しかった事ばかりが、なつかしく心に拡がってきます。

だから私は、こゝに良い思い出ばかりを書きます。（といっても、天間さんの悪い思い出などはさがしてもなかなか見つからないのです）

貴方と私は会社は違いましたが、同じ仙台で地質調査の仕事にたずさわる人間、そして同世代同志、なぜか不思議に気が合うところがあって、出合ってから10数年、何でも一緒にやって来たような気がします。

特に、東北地質調査業協会では、技術委員会の発足当初からお役をいたぶき、最近まで続けて、古狸的な存在になっていたのですが、こんな事でも、少しばかりは協会にお役に立てたようで、昨年は全地連の創立30周年という大きな節目に、これら委員会活動に対して、二人一緒に表彰を受けさせてもらった事は、生涯忘れられないそして、最後の思い出になってしまいました。

地質調査業協会の活動だけでなく、土質工学会、技術士会などの活動や、会合でも、いつも顔を合せ、一緒に飲んで議論しました。

天間さん、貴方はいつも、学会など研究発表の機会には、積極的に参加され、「中央の大手さんに負けないように、地元の我々もやりましょうヨ」と手本を見せ、私達を引っ張る役目をはたしてくれました。そして、若手セミナーが発足すると（もう年令的には若手の範ちゅうからはみ出していたはずですが）率先して、この輪の中に飛び込んで、みんなを

リードしてくれました。

貴方はどんな時でもニコニコ笑みを忘れず、まわりはいつも明るい雰囲気にはち溢れていました。

そう、貴方は東北の地質調査業協会の大きな星として輝いていたのです。

個人的な思い出もいっぱいあります。

そんな中で特に、中央開発の平田勝也さんと3家族でのおつき合いを忘れる事はできません。

3家族そろって、太白山への蝶採り、そして又、その翌年の国立栗駒少年自然の家での合宿生活と自然観察など一緒に居る時は、いつも楽しくすごさせていただきました。

みんな忙しくて大変な時期でしたが、一緒にやってこれて、本当に良かったと思います。残された我々で、貴方の業績を引き継ぎ、これからも協会の活動を充実、発展させて参ります。

どうぞ安らかにお眠り下さい。

敬具

平成6年6月



天間さんのご家族とともに太白山への蝶採り

### 今は亡き天間さんを偲ぶ

中央開発㈱

平 田 勝 也

本年の4月7日に㈱復建技術コンサルタントの吉川さんから、去る3月31日㈱テクノ長谷の天間さんが新庄市でのある発注者との打合せの席上で、突然くも膜下出血し、ただちに市内の病院に入院したが重体である、との悲痛なお知らせを頂きました。それから二日後の4月9日の夜、再び吉川さんから本日昼過ぎついに還らぬ人となられたとのお知らせを頂き、ただただ茫然とするばかりでした。その夜、懐かしい仙台時代の天間さんや吉川さん達との楽しかった思い出のテープを聴くなど、家族で今は亡き天間さんを偲び、人の命のはかなさをつくづくと感じたものでした。以下には、拙い筆ながら、天間さんにまつわるエピソードを述べ、今は亡き天間さんを偲ぶ縁としたいとおもいます。私如きがこのような追悼文を載せることは、非常に心苦しいものがあり、ほかに沢山適任者が居られるものと思いますが、かつての違いを越えた仲良し三人組みであったと言うことでご容赦下さい。

私達一家は、現在東京に住んでおりますが、平成元年3月まで14年間仙台に勤務し、その間全地連東北支部の技術委員会や土質工学会東北支部幹事会や当然業務上も、色々な場面で同業者の皆様とくつろいだお付き合いをさせて頂き、お蔭様で視野を広げることができ、また新技術の刺激を受け、人間的な幅を広げることが出来たことなど、公私共々大変御世話になり、無形の得難い財産を頂いたと感謝しております。

このような忙しい活動の合間にも、特に上記のお二人と私は年齢も近く生活姿勢も似ていた所為か、会合等では丁丁発止と白熱の議論を戦わしたり、一緒に会報の原稿の取りまとめをしたりし、地質調査技士の技術講習会や同試験の実施など、歴代委員長のリードも宜しく年間スケジュールを良くこなしていったものでした。

私達三人は、これらの共同作業が私生活にも及び、家族ぐるみのお付き合いに発展しました。ある年は、吉川さんから自宅の裏山で蝶々が沢山捕れるので、「一緒に昆虫採集をしませんか」というお誘いを頂き、三家族が吉川さんのお宅に集い、子供たちは喜々として野山を駆けずり回り、採集後吉川さんから立派な玄人跣の昆虫採集標本シリーズを見せて頂き、また標本の作り方を教わり、奥さんから心尽くしの温かいトウモロコシ等を振る舞って頂き、皆大喜びでした。ついでに言いますと、当時吉川さんの奥さんは四番目のお子さんを身籠もっておられ、また天間さん御一家も三人のお子さんをお持ちで、両家共活

力に満ち満ちた生活と仕事ぶりで、流石甲斐性のある方々は大したものだなあと、私達は感心したものでした。

また、次の年、皆さんに御世話になってばかりでは申し訳ないと、今度は私が幹事役になって、花山少年自然の家の、二泊三日の夏休みのキャンプを計画しました。例によって、三家族が集合し、子供たちは自然の家周辺のせせらぎでの水遊びをしたり、吉川さんの案内で廃杭のズリ捨場での鉱石採集をしたり、栗駒山登山をしたり、夜は花火を楽しんだり、それから消灯後こっそり天間さん持ち込みの、ウイスキーと氷のオンザロックを楽しんだり、大変良い思い出となりました。川遊びの際は、天間さんが器用に次々と笹舟を作って下さり、子供たちは喜々として、我を忘れて夢中でした。

天間さんの人となりは、このように、繊細な内面を持った優しい父親の面と、情熱的で積極的な仕事ぶりと、その反面有り余るエネルギーと現実との落差に悩んだり、非常に人間的な持ち味を持った振幅の大きな方であったと理解しております。外に雄々しく戦い、内に家族を優しく慈しむ立派な男であり、父親であったと思います。幸い、立派な奥様とお子様にも恵まれ、皆様一致団結して父親の御意志を受け継いで、世のため人のためご活躍なされることでしょう。

最後に、私事ですが、やがて仙台に帰った際には、老後の楽しみをこれらの皆様達と共にしようと、目論んでいたのですが、その一角が早くも崩れてしまって、非常に残念に思います。

天間さんの御魂が天国で安らかにお憩になることを願って、また残された御家族と私達が遺志を受け継いで、少しでも住み易い世の中になるよう努力することを誓って、筆を措かせて戴きます。

平成6年6月



花山少年自然の家でのキャンプ風景